

● おこる
● 中川ひろたか／作
● 長谷川義史／絵
● 金の星社

一宮市立
豊島図書館



月よう日、朝ねぼうしておこられた。火よう日、ピーマンをのこしておこられた。毎日毎日、おこられてばかりのぼく。どうしてぼくはおこられるのだろう。そうだ、こうなったら、おこられないところに行こう。広い海に、ボートでこぎ出してみんだ。そりゃあ、ぼくだっておこるさ。でもね、おこったあとって心はどんより。おこったからって気持ちがつつきりするわけじゃないのに、どうして人はおこるんだろう。

● いつもちこくのおとこのこ
● ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー
● ジョン・バーニンガム／さく
● たにかわしゅんたろう／やく
● あかね書房

愛知県図書館



じぶんの話をしんじてもらえず、くやしい思いをしたことはありませんか。そんなときはこの本を読んできぶんすつきり。主人公の男の子ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシーはいつも学校にちこく。なぜかとちゆうでワニやライオンがあらわれてじやまをします。先生にわけを話してもぜんぜんしんじてくれません。でもある日、先生はゴリラにつかまって、ジョンに助けをもとめてきました。

瀬戸市立図書館

● きょうはなんのひ？
● 瀬田貞二／作
● 林明子／絵
● 福音館書店



「しーらないの、しーらないの、しーらないの、かいだん 三だん目」
そんなまみこの歌にさそわれ、お母さんは家の中を行ったりきたり。会社にも電話して、お父さんのポケットの中に入っていた手紙を読んでもらったり。出てきた十まいの手紙をあわせてみると……。
まみこちゃんもすてきなプレゼントがもらえてよかったね。

稲沢市立中央図書館

● じごくのそうべえ
● 田島征彦
● 童心社



もともとは落語のお話です。かるわざ師そうべえは、悪いこともしていないのに、えんまさまにこわい地ごくへ落とされてしまいました。うわさのとおり、おそろしいところです。しかし、そうべえは負けていません。地ごくで大あばれして、とうとう地ごくをおい出されてしまいます。ダイナミックな絵と、のりのよいお話の絵本です。おとなの人に読んでもらうとたのしいです。おとなも子どももいっしょに笑ってしまいます。

小牧市立図書館



●がぶりもぐもぐ！
●ミック・マニング、
ブリタ・グラントストローム／作
●藤田千枝／訳
●岩波書店

いろいろな動物が食べたい食べた
い……。ああおいしいなおいしい
な！と、リズムのある言葉に合わせ
て、めはイモムシに食べられ、イモ
ムシはキリギリスに食べられ、キリ
ギリスはクモに食べられと、食べた
り食べられたりのかん係がつづき
ます。やがて、土の中の小さな生き
物も登場します。楽しい絵と言葉で
生き物の命のつながりをわかりや
すく伝えている科学絵本です。

春日井市図書館



●かわ
●加古里子／作・絵
●福音館書店

みなさんがいつも見ている川は大きい？
それとも小川のせせらぎ？ この本は、高い
山から流れ出した小さな流れが、長い道
りをたどって大海に流れ出るまでを書いて
います。川の流れて行く様子や、それぞ
れのまわりのふうけい、人々のくらしの様
子などが、細かいところまでえがかれ、川
と人とのかん係がとてよくわかります。ま
た、川の一生が次のページへとつながつて
書かれている点が何より楽しく、見あきな
い本です。川とともに旅してみてくださいね。

豊明市立図書館



●かたあしだちょうのエルフ
●おのき・がく／文・絵
●ポプラ社

エルフは、アフリカの草げんにくら
大きくて強いだちょうです。子どもが大
すきで、みんなからとてもすかれていま
した。ある日、子どもたちを守るため、
ライオンとたたかい、足を一本なくして
しまいます。かた足になったエルフは、
こんどは子どもたちをせ中のにせ、命が
けで黒ひょうとたたかいます。さい後の
力をふりしぼったエルフは、とうとう大
きな木となつてしまいます。本当のやさ
しさと強さをエルフが教えてくれます。

尾張旭市立図書館



●とくべつな いちにち
●イヴオンヌ・ヤハテンベルフ
／作
●野坂悦子／訳
●講談社

アルノはドキドキして教室へむかう。
ドアを開けるとみんながじつと見てい
た。「このまま家に帰っちゃおうかな……」
図工の時間、アルノはお絵かきしたいの
に「ネックレスを作つてね」と言われ、
たいいくの時間、みんなは着がえを始め
てもアルノは着がえがえたくない。「そんな
こと急に言われたつて……」はじめて学校
に行くアルノにとってはなれないこと
ばかり。転校生の心きようが文章にこめ
られ、アルノの気持ちのへんかもえが
かれた作品になっています。

清須市民センター



- てんでら竜がでてきたよ
- おのりえん／作
- 伊藤英一／絵
- 理論社

お母さんが友だちのけっこん式によばれて長さきに行ったので、ありこはお父さんと二人でおるすばん。ありこはお父さんに長さきにいる「でんでらりゅう」のたまごの絵をかいあげました。すると夜中に、なんとたまごの中からでんでらりゅうの赤ちゃんが生まれたのです！ ありこはでんでらりゅうの「お母さん」になっていっしょうけんめいお世をします。さいごに「でんでらりゅうば」の歌のがくふものついで楽しいですよ。

日進市立図書館



- うみのかくたい
- ※「子どものとも」傑作集38
- 大塚勇三／作
- 丸木俊／絵
- 福音館書店

音楽好きの船員さんと音楽ずきの魚たちのストーリー。その船ののりくみいんはそろって音楽好き、夕方になるとがくだんを作り、かんぱんでえんそうをしています。それをききに集まる音楽ずきの魚たちは、サメ、カツオ、マグロ、そして多くの小さな魚たちと、クジラ、イルカがいました。ある日、船はとつぜんのあらしにそぐうし、その日をきっかけに、海に住む彼らと心あたたまる交流が始まります。そして、がつきを持った魚たちによってふしぎで美しい音楽がかなでられました。

東郷町立図書館



- おいのちのぼうけん
- ふるたたるひ、
- たばたせいいち
- 童心社

さくら保育園には、こわいものがふたつあります。ひとつはおいれで、もうひとつは、ねずみばあさんです。さくら保育園に通う、あきらとさとしはおもちやの取り合いでけんかになり、お仕おきで真っ暗なおいれに入れられてしまっています。やがて、暗やみの中にねずみばあさんもあらわれます。二人ははげまし合い、手を取り合って、おいれのぼうけんに出かけます。三十年以上前に出ばんされましたが、今の時代でもきょう感でき、ずっと読みつがれている本です。

北名古屋市東図書館



- いのちのつながり
- 中村運／文
- 佐藤直行／絵
- 福音館書店

動物園の動物にあったことあるよね。植物ものやまの動物たちも知っているよね。植物も動物の体も、「さいぼう」がたくさん集まってできているんだ。さいぼう中の「いでんし」が、親のせいしつを子どもに伝えていくんだ。「いのちのつながり」では、海の中で生まれた「さいぼう」がどうやって今のように植物や動物に「進化」していったかが、わかりやすく書いてあります。

豊山町社会教育センター図書室

●ねぼすけ はとどけい
 ●ルイス・スロボドキン／作
 ●くりやがわけいこ／訳
 ●偕成社



小さな村の時計屋さんに、たくさんのハト時計がかざってありました。時間どおりハトがとび出す中で一羽だけ、いつもおとされて鳴くハトがいたので。どうしても時間におくれるねぼすけなハト。時計屋さんはねぼすけさんを起こすためにとくべつな仕かけを作ります。ちよつと間のぬけたハト時計をめぐる、時計屋の老主人と子どもたちのほのぼのとしたお話。

長久手町中央図書館

●ふとつたきみとやせたばく
 ●長崎源之助／作
 ●鈴木たくま／え
 ●理論社



一年生のタイチとマサキ。太ったタイチのあだ名は、コロッケ。やせつぱちのマサキのあだ名は、エンピツ。体育がにが手な二人の夏休みの宿題は、てつぼうで、さか上がりと足かけ上がりができるようになること。そんな二人の夏休みのはじめ、思いがけない事がおきて……。

江南市立図書館

●ふゆじたくのおみせ
 ●おおきなクマさんとちいさなヤマネくん
 ●ふくざわゆみこ
 ●福音館書店



ある秋の日、森に「ふゆじたくのおみせ」ができました。お店の売りものは全部、どんぐりと交かん。なかよしのクマさんとヤマネくんは、おたがいのプレゼントを買うために、それぞれどんぐりを拾いに出かけますが、二人とも、さい後の一こがなかなか見つかりません。クマさんとヤマネくんが、大好きな相手のために一生けん命がんばるすがた、そして、二人を見守る森のみんなの思いやりに、とてもあたたかい気もちになるお話です。

犬山市立図書館

●ぶす
 ●内田麟太郎／文
 ●長谷川義史／絵
 ●ポプラ社



出かける主人からあずかった「ぶす」。何ともあぶないもののようにです。二人の家来は、中身が気になって仕方ない。とうとう開けてしまいました。はたしてその中身とは？ そして「ぶす」を開けてしまった二人は、知えをしぼって言いわけを考えます。二人の話す、昔の言葉は、思わずまねしたくなるような楽しさ。大人の人に読んでもらったら、次は自分で読んでみたくなりますよ！

大口町立図書館



- わがままいもうと
- ねじめ正一／文
- 村上康成／絵
- 教育画劇

「アイスクリーム」を買ってきたら「バナラじゃなくてイチゴがいいの」って言われてしまい、病気の妹のわがままにふり回されるお兄ちゃん。でも、そんな妹がかわいくてがんばっちゃうお兄ちゃん。兄妹あいつておもしろいですね。病気でねている妹に「アイスクリーム食べたい」って言われた時、あなたがお兄ちゃんだったらどうしますか？ 「お兄ちゃんががんばれ！」っておうえんしたくなるお話です。

岩倉市図書館



- としよかんライオン
- ミシエル・ヌードセン／さく
- ケビン・ホークス／え
- 福本友美子／やく
- 岩崎書店

いつもしずかな図書館にライオンがあらわれ、みんな大あわて。でも、お行ぎのいいライオンは、すぐにみんななどなかなよしに。ところがある日。
図書館にライオン?! 館長のメリウエザさんは、決まりを守っていれば、と平気です。すてきな館長さんです。この本は図書館の仕事のこと、図書館が大切になっていることが、わかりやすくえがかれています。ライオンのせ中にもたれて本を読める、そんな図書館があったらなあ……なんてゆめみてしまうのです。

扶桑町図書館



- さっちゃんのまほうのて
- たばたせいいち
- 作・絵
- 借成社

さっちゃんは、弟がもうすぐ生まれるので、すごくお母さんになりたかったのです。そこで、ようち園のままごとで、お母さん役に立こうほすると、いつもお母さん役をやっているまりちゃんはおこつて「さっちゃんは、お母さんにはなれないよ。だって、手のないお母さんなんてへんだもん。」と言いました。さっちゃんの右手には五つの指がないのです。生まれつき指のない少女の実話をもとに作られた絵本で、むずかしい問題をあつかっています。読んだあとは、さわやかな感動をあたえてくれます。



愛西市中央図書館



- 原寸大 どうぶつ館
- 成島悦雄 / 監修
- 前川貴行 / 写真
- 小学館

津島市立図書館



- おおきな きがほしい
- 佐藤さとる / 文
- 村上勉 / 絵
- 借成社

あなたは、パンダを知っていますか？ では、パンダの顔がどのくらい大きいかわかりますか？

この本は、パンダやシマウマ・ラクダなど、いろいろな動物が本物そのままの大きさでのっています。だから、パンダの目の上にあるまつ毛のような毛にも気づくことができるし、コアラのふさふさの耳もすぐそばにあるかのように見られます。動物のまんに立ったような大はく力の写真を見て、動物の命を感じてください。

大きな木があるといいな。木の上に小屋を作って、ホットケーキを食べるのさ。小屋にはベッドもあるんだ。もつと上には、リスの家があつて、もつともつと上には、見はらし台があるんだ。きつと、鳥になつたような気分になれるにちがいない。そんな大きな木があるといいなあ。

七宝町公民館読書室



- おかあさんとさくらの木
- 柴わらし / 作
- 田中清代 / 絵
- ひくまの出版

弥富市立図書館



- うさぎのみみはなぜながい
- 北川民次 / 文・絵
- 福音館書店

あきら君は、お母さんとわかれて、おじいちゃんとおばあちゃんにとくらしています。ある日、「今日、お母さんが来るんだ。」「そりやよかったな。すっかりあまえるんだよ。」古いさくらの木は、体をゆらししました。あきら君の友だちは古いさくらの木です。悲しいときさくらの木の下に立つといつもお母さんのはげましの声がきこえてきます。お母さんはどこへ行ってしまったのでしょうか。お母さんと子どもの深いきずなをえがく、とても感動できな絵本です。みなさんも読んでみてください。

メキシコの民話からのお話です。森にいる多くの動物たちのなかで、ちつぽけでみずばらしい体のウサギは、神様の前へ出て「もつと大きな体にしてください。」とお願ひします。しばらく考えた神様はやくそくした物を持って来たらねがいはいかなえてやろうと言います。語り伝えてきたお話には、民話の知え、生きるすがた、あつい思いがこもっています。

民話が全ての人の心を打ち、幼い子どもたちにも伝わるのは、そのためです。



甚目寺町中央
公民館図書室

- 一年一組
- せんせいあのお
- 鹿島和夫／編
- 灰谷健次郎／対談
- 理論社



美和町図書館

- あのとき
- すきになつたよ
- 薫くみこ／作
- 飯野和好／絵
- 教育画劇

「あのねちよう」のがんそである鹿島先生が、昭和五十三・五十四年に受けもった、一年一組の子どもたちに、毎日書かせることにより生まれた心温まる作品の数々です。小学校一年生が、大人のダメさをてきかくに言い当てていたりします。

阪神大しんさいのさい、大きく成長した子どもたちは、この「あのねちよう」だけは宝物なのでなんとしてでも見つけ出し、持ち出したといえます。また、子どもたちの写真も本当にすてきで思わずほほえんでしまいます。

教室のはじつこのせきがわたし、うしろのせきにあの子。ほんとは「きくちまりか」なんだけど、おしっこもらしてばっかりいるから「しっこさん」。しっこのしっこたれうんこたれ！ ケンカしたけど二人で金魚のおはか、つくったね。病気のときにはお手紙くれた。でもしっこさんをほんとおすきになったのは、わたしの足もとにおしっこの水たまりが広がったあのとき…。

友だちを心から思いやるとはどういう事か、大人のむねにもひびく一さつ。

- かいじゅうたちのいるところ
- モーリス・センダック／作
- じんぐうてるお／訳
- 富山房

蟹江町図書館



- 100万回生きたねこ
- 佐野洋子／作・絵
- 講談社

大治町立公民館図書室



あるばん、お母さんにおこられて部屋に閉じ込められたマックスが、ふねに乗ってようやくたどり着いた場所は、かいじゅうたちのすみか。かいじゅうたちの王様になって、思いきり遊んだマックスだったけれど、あたたかいおうちのことを思い出し、なんだかさびしくなってきました。「やっぱりおうちにかえりたい。」やっとおうちに着いたマックスをむかえてくれたのは、ほかほかあたたかいゆうごはん。おうちのぬくもりがこちよい一さつです。

一〇〇万回死んで一〇〇万回生き返ったネコがいました。自分だけが大好きで自分以外だれもあいすることのなかったネコ。ある日、一匹の白いネコと出会い、自分の中で何かが変わります。自分以外のあいするものを見つけ、そしてそれをうしなう。その時はじめて他人のために涙を流します。あいする心を知って初めて悲しみを。悲しみを知らなければあいするよるこびや幸せもわからない。ふだん言葉にできない気持ちや話せない思いがたくさんつまった絵本です。